

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)	良くなる	コンビニ（販売促進担当）	・4月から包材、小麦粉、油等の価格が上がるが、そのなかでパンは価格を据置きでスタートする。いま以上に伸びることはないが、ほぼ横ばいの販売量で推移し、良い状態を維持する。
		住宅販売会社（代表）	・今後2、3か月という単位でいうと建築業界や工務店業は必ず良くなる。ただ、1、2年は続くが、その後の3、4年後は駆け込み需要の反動で必ず落ち込む。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・テレビやラジオ等の報道で、景気にテコ入れをするという政府の方針が少しずつ企業に浸透し、良くなっている企業がある影響か、消費者の財布のひもは少し緩みそうな雰囲気が出てきている。期待感を持った消費者が多い。
		商店街（代表者）	・4月からは商店街全体で販売促進事業を企画しており、売上及び来客数の増加が見込まれる。今後2～3か月先は景気が上向く。
		百貨店（売場主任）	・百貨店の店頭で活気が出ている。既存の客だけではなく、フリーの客の購買が目立つようになってきた。3月のパーソナルギフトの動きも好調で、1万円前後のネクタイや革小物が良く売れている。
		百貨店（総務担当）	・昨年12月に最悪であった飲食の宴会需要にやや回復の兆しがみられる。
		百貨店（営業担当）	・友の会春コース入会での次年度購入準備、クレジットポイント催事やクレジットシェアの増加により、客の購入意欲やお得感への敏感な反応が感じられる。また、消費税増税への対策意欲も後押ししている。
		百貨店（販売促進担当）	・今後の予定では、毎月新規フェアを実施する計画があり、来店促進につながる。
		百貨店（営業統括）	・アベノミクス効果が地方都市にも少しずつ反映される可能性が大きい。
		百貨店（売場担当）	・円安、株高の効果が企業の業績に反映され、個人の消費にも少しずつ反映される期待があり、景気はやや良くなる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・例年よりも気温が高いせいもあり、客の来店頻度や来客数が昨年よりも増えている。
		衣料品専門店（店員）	・旅行用の服を買う客が増えてきている。これから旅行のシーズンなので景気は少し良くなる。
		衣料品専門店（チーフ）	・消費マインドが回復傾向にあるため、そのまま売上が伸びる。
		家電量販店（店員）	・アベノミクスがうまく功を奏し、景気は良くなっている。当社の株価も多少の上下はあるが、全体で見ると3か月前から上ってきており、今後は期待感も込めてやや良くなっている。
		住関連専門店（店長）	・移動や新生活シーズンで開いた財布のひもが、あと1～2か月は緩んだままで推移しそうな兆候がある。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・4月は入学式のシーズンということで、コーヒー関係はちょっとした進物ギフトが良く出る。また4、5月は気候的に暖かくなるので例年通り来客数が増える。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・今年は4月末から5月上旬の連休が大型化しているため、売上は昨年以上に増える。このため今後3か月間は売上は伸びる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・客の様子をみると、将来への期待感が出ている。今春の賃上げでもベアを実施する企業が増えており、政府の景気対策から円安や株高も明るい兆しとなっており、消費環境を後押しする。
		居酒屋（経営者）	・最悪だった年末よりは人が動いており、このような人の動きが維持され、景気は上向く。
		観光型ホテル（スタッフ）	・4月以降の予約状況が順調に伸びている。
		タクシー運転手	・この先の予約状況が大変良く、客を乗せた時にも大変明るい話が聞けるようになった。会社の先行きや予約状況、稼働状況が大変良いという話を聞く。
		タクシー運転手	・一部の企業であるが、ボーナスを満額出すという傾向にある。また、お金を全然持っていないわけではないので、少しずつお金が消費に回り、景気が少し上がってくる。
通信会社（営業担当）	・政府が進めているいろいろな経済政策を確実に実行して、それが末端まで浸透することが期待される。		
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・政権交代により、施設系の補助金枠が増額傾向であり、事業拡大に向けた動きが活発になる。		

	住宅販売会社（従業員）	・ 政権が代わり、アベノミクス効果による株価の上昇等により、不動産業では投資等の動きがみられる。ただ、実態経済で実際に景気が良くなるのは1、2年様子をみなければならぬ。また、自治体の動きも注視する必要がある。中小企業で賃上げがあったところは、景気が良くなる。
	住宅販売会社（従業員）	・ 消費税増税前の駆け込み需要発生といった特需の影響が徐々に顕在化してくる。
変わらない	商店街（代表者）	・ 売上の伸びがみられない。しかし、これ以上悪くはならない。この状態がしばらくは続く。
	商店街（代表者）	・ 先行きは不透明で、将来の展望がたたない。厳しい状況が続く。
	商店街（代表者）	・ 商店街にとって景気が良くなる要因が全くないので、悪い状況はこのまま続く。
	商店街（代表者）	・ 4～6月と春の行楽シーズンに向けて景気が良くなると期待しているが、現在、卒業や入学、就職又は行楽と、かなり出費が見込まれている。また5月以降は電気代の値上げも言われており、先行きは一般の家庭で財布のひもがかなり固くなり、厳しい時期がくる。
	一般小売店〔青果〕（店長）	・ テレビの報道でアベノミクスが全国的にかなり騒がれているが、当地の青果物に関しては、その反応は鈍い。特に当店の客層は高齢者で年金収入の客が多く、消費税増税のことを考え買い控えをする客が多い。3か月先も変わらない状況となる。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・ 桜は満開だが、店は閑古鳥が鳴いており、売れそうな気配が全くない。どうしたものか塞ぎ込むばかりである。
	一般小売店〔精肉〕（店員）	・ 景気が上下するような要素は特にない。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・ 例年通りであれば5月の新茶時期に入るまでは売上は上がる。4月から仕入れ値も上がるが、売値を変更せずに行くため、大きな売上は期待できない。
	百貨店（企画）	・ 景気回復への期待は大きいですが、反面、客の動向は期待通りではなく、買物での取捨選択は相変わらず慎重である。
	百貨店（店舗事業計画部）	・ 景気回復報道で消費者心理はプラスに働く反面、電気料金の値上げ等マイナス要素もあり、夏季賞与支給の動向がみえるまで、景気は大きくは変わらない。
	百貨店（営業政策担当）	・ 株価の高まりや一部有力企業の春闘における賞与増額等、好材料があるものの、長期金利等その他の経済指標は低位である。ガソリン価格の高騰も続き、個人消費全体が好転するにはまだ力不足である。
	百貨店（売場担当）	・ 特段にマイナス要因はない。当店は5月に2つの催事を行うため、確実に前年実績を上回る。その他、競合店においても、景気は悪くならないとみている。あとは天候要因がどのように左右するか分からないが、衣料品関係を中心に売上はかなり上がる可能性がある。家庭用品についてはリニューアルを行っており、そこそこ伸びる。食料品の流れは今とほとんど変わらない。来客数はマイナス要因がみられない。
	百貨店（業務担当）	・ この時期に売れるべき商材が売れず、もう少し暖かくなって動き出す商材が前倒しになって動いているため、これから先を考えると少し不安である。
	スーパー（経営者）	・ ベアやボーナスに報道ほどの期待ができず、消費者には買い控え傾向がみられる。
	スーパー（店長）	・ 加工食品や惣菜等の調理品の購入が増えてきているが、価格面では厳しい。今後、大きな変化はない。
	スーパー（店長）	・ 5月になると競合店進出の影響が一巡し、5月を過ぎれば前年比は改善する見込みである。政府のアベノミクスの影響は食品業界にはあまり影響しておらず、今後3か月の流れはあまり変わらない。
	スーパー（店長）	・ 全体的には景気の先行きは明るい兆しがあるが、小売についてはまだまだ実感がない。ただ、時計やバッグ等の高額品が少しずつ売れており、速度は遅いが、これから小売りのほうにも少しずつ景気の浮上が期待できる。
	スーパー（店長）	・ 政府の景気対策の効果が新聞やマスコミ等で取り上げられているが、電気料金の値上げやガソリン価格の高騰等により、消費者の生活防衛意識は高い。実用品においては必要な物を必要な時にしか購入しない傾向である。
	スーパー（総務担当）	・ 客の価格への意識は引き続き強く、低価格競争がこれからもしばらく続く。
スーパー（総務担当）	・ 例年になく気温が上昇しているため、若干ながら来客数の増加に期待がもてる。一方で、競合他社や新規参入により、競争が激化しており、総合的にはあまり変わらない。	
スーパー（経理担当）	・ 春から夏にかけて競合店の出店が多く続き、競争激化に拍車がかかる。	

スーパー（業務担当）	・生鮮食料品の動向はここ数か月間変化がなく、目新しい動きがない。売上点数や客単価も大きな変動はなく、景気上昇の兆しがあるとは言えない。
コンビニ（経営者）	・商品の値上げの動きがあるが、売上や買上数量は増えない状況が依然として続く。
衣料品専門店（店長）	・アベノミクスにより、景気回復が消費向上につながるのはいち早く先になる。
衣料品専門店（店長）	・桜のせいで春が早く来たように感じ、花見用の弁当の動きは良いが、春のお出かけには早いようである。客の動きはまだ鈍い。今後もこの状況は変わらない。
衣料品専門店（総務担当）	・株価の上昇や一部の大企業の給与の上昇等、景気はやや良くなっているようだが、当地においては中小企業が多く、実際の所得向上につながるかどうか、見極めが難しい。慎重な購買動向は変わらない。
衣料品専門店（取締役）	・円安や株高、企業内に埋蔵金があるところはボーナスが増えるというような報道がなされており、物の動きがある。しかし、多くの企業は売上が上がらないことには給料等を増やすことは難しいので、今後の実態経済はまだ読めない。景気が良くなるかは全く分からない。
家電量販店（店員）	・卒業や入学シーズンのこの時期、家電は盛り上がりがないといけませんが、現在そういった動きはない。この状態であれば4～6月は気温に左右されるような状況となり、このまま悪い状態が続く。
家電量販店（総務担当）	・いろいろな仕掛けや招待セールを行っても、誘客につながらなくなっている。今後もこの状況が続く。
家電量販店（広報・IR担当）	・身の周りについて、景気の良くなる材料が見当たらない。
乗用車販売店（総務担当）	・今後も車両の販売台数はエコカーを中心に堅調に推移する。
住関連専門店（経営者）	・4月からの電気料金やガソリンの値上げの報道があり、消費者の財布のひもは固くなる。地方では所得増加の話もまだ出てこないもので、先行きは不透明である。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	・燃料油の仕入価格及び小売価格は、為替の要因が大きく、2～3か月後の小売価格を予想するのが困難な状況である。景気が回復し、流通が活発化することによって、自動車等の使用頻度が増加し、燃料油の販売量の増加に期待したい。
その他専門店 [書籍]（地区支配人）	・景気はやや悪い方向で変わらない。客の買上販売量の減少傾向に歯止めが掛からない。
その他専門店 [書籍]（代表）	・新政権の経済対策の効果も地方の小売現場では、実感が薄い。今後も厳しい状況が続く。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（支配人）	・アベノミクスで景気は上向きになるかもしれないが、4月からの電気代など公共料金の値上げがマイナスに働く。
高級レストラン（専務）	・十数年景気の悪い状態が続いているが、今、少し良くなっている。ただ、政治がまだ安定していないので、1年ぐらい経たないと判断がつかない。これから先、消費税増税等マイナス要素もいろいろある。
高級レストラン（支配人）	・予約数が増加傾向でない。
観光ホテル（総務）	・予約状況や収入予測の結果、景気は変わらない。
都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況が例年と比較しても大きく変動していない。
都市型ホテル（副支配人）	・4～6月は福岡市内のイベントが予定通りに開催され、今後も現状より良くなる。
旅行代理店（従業員）	・円安による海外旅行への影響はないが、レジャーへの消費を増やしている実感もない。
旅行代理店（企画）	・福岡発アムステルダム行き直行便が4月より就航という業界にとって明るいニュースがあるため、販売増に期待がある。一方で、原油価格の高騰や円安の進行により、客にとって魅力的な環境とそうでない環境が顕在しており、先行きには不透明感がある。
タクシー運転手	・東京方面ではいくらか景気が良くなっているような話が聞かれるが、その景況感が地方のほうまで流れてくる。
タクシー運転手	・選挙が近づいてくると人の動きが極端に悪くなるので、あまり期待できない。
通信会社（管理担当）	・債権回収会社に債権の回収を依頼しているが、上手くいっていない。
通信会社（業務担当）	・4月以降は市場としてもあまり良い情報はなく、新商品の発売時期の販売増は期待できるが、スマートフォン全体の販売は他社からの攻勢でシェアが減る状況が続く。
通信会社（総務局）	・個人消費に対するアベノミクス効果は秋以降になる。

		通信会社（販売部）	・年間最大の商戦期である3月の来場者数が伸び悩んだことを考えると、今後も大きな期待は持てない。
		ゴルフ場（従業員）	・ゴルフの予約状況は特にゴールデンウィークに関して、昨年と比べて半分位の予約数で推移している。観光地として全体的に伸び悩んでいるのが現状である。また、地元客もやはり単価の安いゴルフ場でプレーしている状況で、なかなか収入が増えず、回復の兆しはみえない。
		ゴルフ場（支配人）	・4～5月の天気、季節予報は平年並みと発表されているが、1～2か月先のコンペ予約はあまり増えていない。本来はシーズン料金を高めに設定したい季節であるが、入場者数の確保も必要であり、価格はあまり高くできない。低価格競争が続いており、今後も厳しい。
		競輪場（職員）	・売上の動向は一定に推移している。今後もこの状況が続く。
		美容室（経営者）	・おしゃれ業界で3月に思った以上の景気回復が望めなかったことや客の購買意欲が見込めないため、並行線である。景気の先行きはあまり変わらない。
		美容室（店長）	・景気が良くなりつつあるが、急には良くならない。消費者は様子をうかがっているようである。
		設計事務所（所長）	・消費税増税前の駆け込み需要が多くなる。実際の景気はそれほど良くなっていない。現在は消費税の絡みで少し忙しくなっている。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・テレビや新聞報道ではアベノミクスによる春闘のベースアップや高額マンションの好調な販売等が伝えられているが、都内や大企業、高額所得者の一部の層に限られている。地方や中小零細企業、特に低所得者や年金生活者には公共料金の値上げや円安による物価上昇が消費行動を鈍らせている。
		商店街（代表者）	・当店はオーダーメイドの印刷や彫刻サービスを承り、今の時期の需要はあるが、3か月後は減少傾向になる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・花屋は今から母の日までは何とか見込めるが、毎年ながら、それ以降の夏場の需要は減る。新たな劇的な大口納品先をみつけないことにはかなり厳しくなる。
		スーパー（店長）	・今後もコンビニエンスストア等の出店が予定されており、ますます競争が激しくなってくる。身近な商品はコンビニエンスストアでの購入が多く、食料品が減少傾向にある。
		スーパー（店長）	・来年の消費税増税に向けて、消費者の節約志向は更に強まる。
		乗用車販売店（従業員）	・決算が過ぎ、客の来店が少なくなるので、魅力のある車が投入されないと受注は落ちる。
		高級レストラン（経営者）	・来月の予約状況をみたところ、今一つ伸びがない。3月に送別会が結構入ったが、4月の歓迎会がなかなか動かない。アベノミクスは消費に影響しているが、実際、飲食店に影響してくるのはもう少し先である。
		通信会社（企画担当）	・競争が激しくなっており、競合大手への対抗が困難になっている。厳しい状況が続く。
		理容室（経営者）	・今月は前年度と比較して、少し良くなりそうである。卒業や入学、就職等で客が少し動いているが、例年4、5月はその分、客が減る。それをまた補うには3か月～半年近くかかり、決して良くなるとは考えられないので、景気はやや悪くなる。
	悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・3か月後も現状の景気は変わらない。あらゆるキャンペーン等を含め売り込みを図り、売上アップ、利益確保を行う。
		自動車備品販売店（従業員）	・ディーラーがナビゲーションの販売に力を入れており、ナビゲーションの売行きが悪い。今後も厳しい状況が続く。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・近隣の競合店が相次ぎリニューアルしている。今後も厳しい状況が続く。
企業動向関連 (九州)	良くなる	—	—
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・円安の影響等で輸入物の高値感があり、国内物の相場が安定している。これで景気上昇の期待感もあり、大手冷食加工メーカーを中心に原料肉等の引き合いが高くなっている。スーパー等についても地元を中心に総菜加工品等発注が少しずつ増え始めている。
		繊維工業（営業担当）	・円安の影響で少しではあるが、生産が日本に戻りつつある。オーダーが増えている。ただ原油の値上がりで、糸やほかの資材で値上げが考えられている。
		家具製造業（従業員）	・2～3か月先の受注案件が確実に増えており、3か月先の物件情報は3割増しの状況である。家具小売も需要期とはいえ、売上を伸ばしている。

鉄鋼業（経営者）	・以前は各月の受注量に大きな波があったが、近頃は大幅増がないものの、安定した受注量が継続している。ただ、販売量は工事現場の人手不足や材料加工場での人手不足があり、伸び悩んでいる。今後も受注量は期待できるが、工事の進捗に不安がある。	
金属製品製造業（企画担当）	・大型補正予算の成立により、受注に動きが出ている。	
一般機械器具製造業（経営者）	・円安の影響で、今後輸出産業には若干の上昇気運がある。ヨーロッパ問題により、円高になると厳しい状況となる。2、3か月はその推移をじっくりみながら、日々の状況を把握していく必要がある。	
一般機械器具製造業（経営者）	・引き合い見積の件数が多くなっており、これらの仕事が増えてくる。	
電気機械器具製造業（経営者）	・新年度になり、経営改革や経営システムを全面的に変える。時間管理を徹底化することによって、業績が即座に個人や団体、グループ、全体も分かるようにすることで、やる気を起こさせる。また、新製品の開発が99%可能になったので、その製品を展開するため、期待される。ほか、新しい市場や客を開拓していく動きもあり、景気を良くする動きを計画している。	
輸送用機械器具製造業（営業担当）	・得意先の生産計画が上方見直しをしており、景気は良くなる。	
建設業（従業員）	・消費税増税前の駆け込み受注の動きが少しずつではあるが、多くなっている。また、見積案件も増えている。	
建設業（社員）	・2012年度の補正工事の残発注があり、2013年度も前倒しで発注されるとの情報があり、期待はできる。実際に発注され、受注できてこそ景気が良くなってきたと判断されるので、今はまだ不安である。	
輸送業（総務）	・消費税増税前の駆け込みの影響からか、建築資材関係の物量が増えている。自民党政権の景気対策を期待する。	
通信業（職員）	・省エネ関連の事業が伸び悩んでいたが、電気料金の値上げと当社の新システムの提供により、夏までに受注量が増えるのではないかと期待される。	
通信業（経理担当）	・3月決算を迎える企業の好決算が予想される。これまでの厳しい経営環境に対する合理化や効率化、さらには設備投資が経営のプラス要素となり、徐々にではあるがその効果が波及していく。	
金融業（従業員）	・製造業ではこのところの円安効果により、輸出関連企業を中心に商談が活発化している。また、マンションの建設計画も増加傾向にある等、住宅投資が持ち直している。雇用面でも新卒者等の採用枠を増やす動きが出てきている。	
金融業（調査担当）	・取引先等の話から、政策に対する期待感が大きい。しばらくは、マインド改善の動きが継続する。	
新聞社（広告）（担当者）	・引き続き住宅設備関連や通販関連の出稿が増える見込みである。今後2、3か月はこの2業種が売上をけん引する。	
経営コンサルタント（代表取締役）	・公共工事が若干増えている。例年に比べると若干増加している。また、消費税増税の影響でマンション等の建設ラッシュとなっており、建築がかなり増えている。間接的に他の購買を増やす。	
変わらない	化学工業（総務担当）	・世間的には賃上げの話が聞かれるが、当社の賃金は今後2、3か月でほとんど上がる見込みはない。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・4、5月と焼物業界はある程度、販売数量が伸びるが、現状の状態では量販店、百貨店共に売場面積も狭くなり、商品回転率が悪く、売場にもなかなか出ないような状況である。これから特注の動きにも期待されるが、まだ確定的な状態ではない。
	精密機械器具製造業（従業員）	・生産計画は増える傾向にあるが、まだまだ見通しがつかない。
	輸送業（従業員）	・今後は全体的に飲料の荷動きが良くなるという話があり、1、2月で落ち込んでいた輸入紙も少し回復傾向にある。もちろん出荷量等が落ち込む業界であるが、一部では回復している業界もあるため、倉庫業としては何とか変わりなく推移できる。
	金融業（営業担当）	・ビル等の箱物の建築単価はこれから一年、上昇傾向を予想している。新規事業計画の採算悪化が予想され、計画の見合わせ等が生じ、動きが停滞する恐れがある。
	金融業（営業）	・生産が増加した場合、海外移転が進む可能性がある。先行きに明るい兆しもあるが、現状の受注をキープするにとどまる。

	金融業（得意先担当）	・個人からの借入れは住宅ローン案件を含め、堅調に推移するとみるが、事業所への貸出しについては依然として厳しい状況が続いている。今後についても3月末で期限が切れた金融円滑化法の終了後の条件変更の対応等、しばらく予断を許さない状況が続く。	
	不動産業（従業員）	・賃貸物件の入居状況や売上が横ばいに推移している。	
	広告代理店（従業員）	・3月の新聞折込枚数は前年同月比2%減となっている。円安、株高の景気回復の期待感サービス業には、まだ実感がない。2013年の後期は来年の消費税増税前の駆け込み需要により、少しは消費行動が活発になる。ただ、景気回復による活性化とは言えない。まだまだ辛抱の時期は続く。	
	広告代理店（従業員）	・冷え込んだままで売上が伸びない。景気が上向き兆しはない。	
	経営コンサルタント	・一般的には上昇傾向にあるが、コンサルタント関係の仕事はそれから少し遅れて動き出す。	
	経営コンサルタント（社員）	・小売店の廃業や業態変更が見受けられる。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	・問い合わせや案件状況の推移から判断して、引き続き景気は上向いていく。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・建設工事の市町村からの発注は、以前から検討されていた必要な箇所の工事が発注されており、それ以外で継続して増えることは考えにくい。そのため、土木や建築のコンサルタントでは業務量が増加せず、景気は変わらない。	
やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・酪農は餌が非常に上がっており、厳しい状況になっている。また先行きについても円安の状況が続くので、更に厳しくなる。	
	食料品製造業（経営者）	・納入先の来客数の絶対数が不足しており、増加の気配は全く見受けられない。情報が少なく業績予想がほとんどできない状況であるが、納入先となる観光分野の景況感から判断すると、景気は悪い方向に向かっている。	
	食料品製造業（経営者）	・電気料金の値上げは製造業には非常に痛手である。ただ、販売量が減少する時期であるが、例年に比べれば好調に推移する見込みである。	
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・3月末が決算期の取引先が多く、3月の駆け込み需要が終了し、4月以降はやや落ち着く。	
悪くなる	—	—	
雇用関連	良くなる	—	
(九州)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・4月以降の企業の求人意欲が衰えない。
		人材派遣会社（社員）	・昨年からの注文を受けていた短期の仕事の仕量が多く、更新が続いている。また、直接雇用で切替たいという企業も多い。企業側も長期的に雇用できる場所が増えている。
		人材派遣会社（営業）	・企業の投資意欲が少しずつではあるが感じる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・円安、株高により、大手企業の業績が回復し、求人活動が活発化していることから、今後、その動きが地方にも波及すると期待される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・金融緩和が続くので、景気はやや良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気が良くなって欲しいという期待感から、週末や夕方の方の人の動きが増えている。2～3か月後には実態として景気が良くなる。
		職業安定所（所長）	・管内企業に具体的な改善の要素は見当たらないものの、最近の円安や株高、アベノミクスへの期待から動きが出てくる。
		職業安定所（職員）	・消費マインドの好転により、卸売業や小売業、宿泊、飲食サービス業の求人の増加が今後も見込める。
		職業安定所（職員）	・心配された金融円滑化法終了による倒産等の影響もみられず、求人数も増加傾向にある。
		民間職業紹介機関（職員）	・年度末の季節要因や企業の雇用状況が増加傾向にあることから、特に正規雇用に踏み切れない企業からの派遣ニーズが広がっている。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・建築土木業の下請での求人が活発であるが、採用に至っていない。同様に労働集約型の業界の求人特に公共投資等で変わらず採用に苦勞している。建築関連の求人が伸びても、採用が追い付かなければ、景気の先行きは厳しい。	
	民間職業紹介機関（社員）	・消費税増税を控え、建設関連業界では人手不足の傾向がでてきているが派遣そのものの需要が大幅に増えるところまではいってない。	
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・都市部は良くなるが、地方の景気回復はもう少し時間がかかる。	

	学校 [大学] (就職支援業務)	・ 求人件数は増加しているものの、厳選採用という厳しい就職環境は継続している。また、採用予定数に満たなくても選考活動を終了している企業が見受けられ、景気回復には時間がかかる。
やや悪くなる	—	—
悪くなる	民間職業紹介機関 (支店長)	・ 労働者派遣法の法規制強化や運用の煩雑さ等から、取引先がパートやアルバイト社員の直接雇用を増加させている。